

— 高校 1 年・現代社会日本史分野 —

1 活用の目的

「生徒が、自分の興味や関心にもとづいて、主体的に勉強していくためにはどうしたら良いか」それを取り入れたのが、レポート学習である。しかし、まず「何を書くか」生徒自身が見つけることから始めなければならなかった。またそれをどのようにしてさがすか、それも大きな問題だった。最も注意を払ったのは、生徒が自ら模索しながら、自分の興味や関心をとらえていくことが可能な手法をとりたいということであった。イメージマップの活用はこのような観点から導入した。

まず、イメージマップとはどのようなものか、そしてそれをどのように書いたら良いのかを生徒が理解する必要がある。夏休み前、下のプリントを配布した。そして夏休みには、イメージマップを作成することと資料集めを課した。9月に入ってから、再びイメージマップを書かせた。イメージマップの書き方を指導するとともに、夏休みに調べた資料を整理し、テーマをしばらくこませるためである。また、それぞれのイメージマップにアドバイスを与えた。その時の視点は、第一に意欲的に書かれているか、(多くのことは、関係線がイメージマップにあらわれているか)、第二にイメージマップに書かれていることは今まで記憶している知識だけでなく、自分で調査、研究、収集したものが入っているか、ということである。10月中旬指導。レポートの書き方、特にどう構成するかをフランス料理にたとえて指導した。11月中旬、レポートを180人が提出。なお、実際にこの学習のために当てた授業時数は、3時間であった。

夏、たくさん材料を集め、研究を遂げるよう。
Have a good time.
See you again!

90 7 20

田中 利基

3 活用の仕方と留意事項

まず、活用の仕方について：イメージマップによって、レポート完成に至るまでの生徒の思考を次のように段階的に発展させたいと考えた。

第一段階。「日本の歴史」という大きなテーマから思い浮かぶことを何でもイメージマップに書きこませる。最初は生徒の興味・関心をできるだけ果てしなく広げさせる。

第二段階。一回目のイメージマップでよりたくさんイメージをもつことができた事柄を中心に、もう一度イメージマップを書かせる。そしてまたできうる限り、思い浮かぶことをそれに書きこませる。書く過程で、必要だと気づいた資料を収集させる。

第一段階、第二段階を経て、まず生徒の発想を拡大させ、その後思考を深化させ、また発想を拡大させ、再び思考を深化させる……という過程をくり返したどらせた。そしてテーマをしばり、研究を進めさせた。

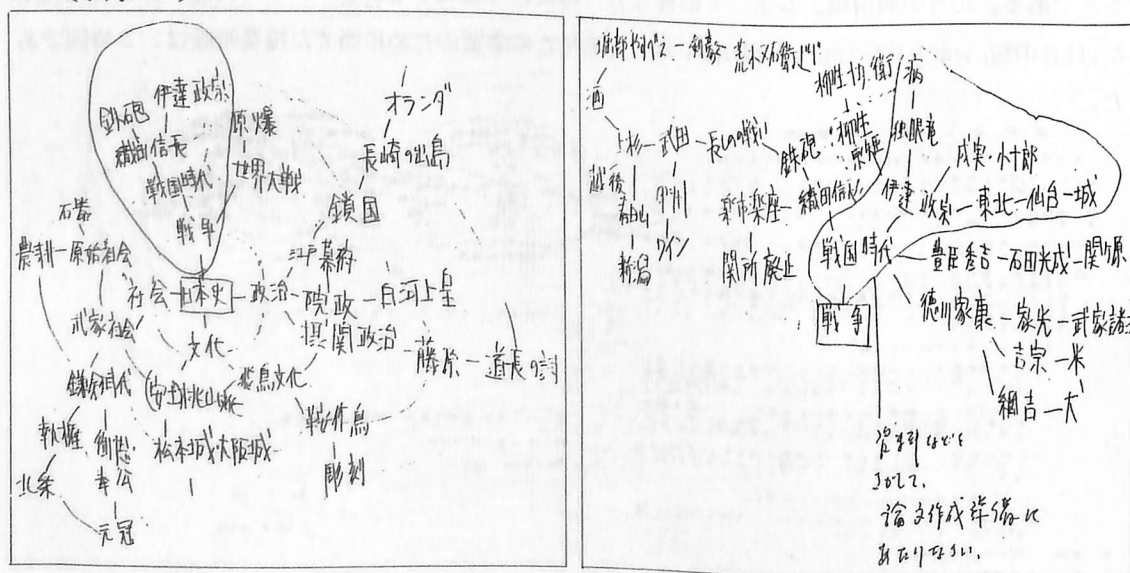
第三段階。イメージマップ、調査研究した資料などを総合化し、レポートとして論理的に展開させるために「目次」をつくらせた。

第四段階。その目次を指針に、自分の見つけたテーマについて資料をもとに自分のことばで、レポートをまとめさせた。

次に留意事項について：事例1、2それぞれの生徒が9月に書いたイメージマップとレポートを対比しながら、考察してゆきたい。両者とも定期考査では通常8割から9割の成績を修めている生徒である。

事例1の生徒は、好奇心旺盛で、自発的にイメージマップも書いてきた。No.1のイメージマップで「日本史」からイメージしたことを見ると、半分は1学期に学習したものである。しかし本人は、授業とは別に戦国時代に関心を示した。それをもとにNo.2のイメージマップでは戦国時代の4人の武将をあがめた。その中からテーマに選んだのが、伊達政宗である。

<事例 1>



＜事例1＞の生徒のレポートの目次

日本史 レポート

伊達 政宗 について

- 序論 ～ 伊達氏について …… 1
 本論 ～ 政宗 について …… 2～11
 結論 ～ 伊達政宗を調べて… 12

事例2の生徒は、なかなかイメージマップが書けなかった。レポート学習にも余り意欲を示さなかった。しかし、提出されたレポートはきちんと10枚までまとめられていた。ただ、目次に見られる通り、織田、豊臣政権の時代について、教科書にある事項を順に説明する事で終わっていた。これは、私の責任でもあったと思う。例えば、事例2の生徒のイメージマップには「資料を集めてもっともっと勉強して下さい」とコメントを加えたが、実際にレポートに取りかかる前に生徒の興味関心をはっきりさせ、

意欲を持たせるような的確でいいアドバイスが必要だった事を痛感する。イメージマップの活用によって、本来の目標達成に向かう前段の指導を充分行うことができる事を、私自身発見した。

4 評 価

イメージマップを書くことは、難しいように思われる。しかし形式にこだわらなければ、その人なりのもので書けるのではないかと思う。ある生徒はレポートのはじめに「私の頭の中の構造」という見出しをつけてそれを書いてきた。「自由な思い出しや発想など」¹⁾を何よりも尊重することが大切だと考える。

今後、生徒が自ら学習していくために、イメージマップを取り入れてゆきたい。しかし、彼らのイメージをいかにしてふくらませられるか、それは、私に課せられた課題であると思う。

註：

- 1) 平成4年度 イメージマップ ―情報活用のための思考を促進するツールとして―

新潟県立教育センター 小・中・高等学校イメージマップ活用講座テキスト

＜事例2＞

本能寺の変

織田 信長

安土・桃山

資料をみて、
 色々 調べて 勉強 して くるわ

＜事例2＞の生徒のレポートの目次

P.2	… 金銭 石包の伝来による戦法の変化
P.3	… キリスト教と南蛮貿易
P.4	… 信長の政策
P.5	… 光秀の裏切り 永吉の全国統一
P.6	… 太閤検地
P.7	… 刀狩
P.8	… 朝鮮出兵侵略
P.9	… 南蛮文化と基督教
P.10	… 桃山文化
P.11	… 結 論